

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

Table with 9 columns: 事業コード, 事業名, 会員実態調査をもとにした経営改善支援と親族内承継並びに事業承継計画作成支援, 戦略コード, 戦略名, 商工会名, ニッ井町商工会, 担当者名, 榊 英孝, 総轄者名, 呼子 晃大, 施策コード, 施策名, 商工会ならではの事業承継と創業推進

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

平成28年11月に実施した会員事業所実態調査によると、本商工会の会員の平均年齢は64.2歳で、年代別では60代が38.3%と最も多く、後継者不在の会員が68.2%となっている。

2. 事業のねらい

今後高齢化が進み、後継者不在による経営継続の危機に直面する会員が増えると思われることから、「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況へ導いていく。また、秋田県事業引継ぎ支援センター所管の秋田県後継者人材バンクへの登録を促し、世代交代への適切な支援を実施する。

3. これまでの評価結果

Table with 10 columns: 過年度, H29, B, H30, B, R1, B, R2, B

事業者の持続的発展を支えることは商工会にとって最も大切な業務の一つである。会員実態調査をもとに高齢化などの課題を把握し、経営改善や事業承継の支援を行ってきた。必要性の高い内容であり、概ね順調である。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

目標に対して実績が下回っていたため、例年以上に事業承継計画の作成に努めた。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Content: 事業承継計画の作成を支援する。 会員実態調査などをもとに代表者が高齢な事業所を中心に事業承継計画の作成を支援してきたが、目標の達成には至らなかった。 c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 18 columns: 項目, 事業承継計画の作成, 項目, 項目. Includes sub-tables for 年度, 目標, 実績, 達成率, 達成度.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

後継者不在の会員が7割に迫り経営者の平均年齢も踏まれば、事業者の持続的発展を支えることが商工会にとって最重要業務である。そのため、日頃の経営改善支援において事業承継計画作成の必要性や事業承継に係る支援施策などを周知しており、具体的な事業承継計画の作成支援に結びついている。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) c

<事業の目標は達成されているかどうか>

事業承継計画の作成支援まで至ったのは目標数に達しなかったが、事業承継診断票による聞き取りも進めたので、今後の計画書作成支援につながっている。また、この5年間で、高齢事業所を中心に事業承継が進んだ。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

平成28年度と令和元年度の会員事業所実態調査により後継者の有無等のデータは整備済みであり、日々の巡回などによりデータを更新し、事業承継支援に活かしている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

平成28年度と令和元年度の会員事業所実態調査の結果を日々の巡回などでデータ更新し、その最新データをもとに事業承継に係る支援施策などを具体的に周知。また、事業承継診断票による聞き取りも行い、事業承継計画書の作成支援につなげている。目標の達成には至らなかったが、5年間で高齢事業所を中心に事業承継が進んだ。

3. 課題

この5年間で高齢事業所を中心にある程度事業承継は進んだが、後継者不在の事業所は多い。事業承継に係る支援施策だけでなく、「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況に導いていくことも必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

第2期アクションプログラムでも、「商工会ならではの徹底サポートによる事業承継の推進」を重点的に取り組むこととしている。今後も会員実態調査を継続して最新のデータを整備し秋田県事業承継・引き継ぎ支援センターなどと連携しながら、併せて「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況に導いていき、事業承継計画の作成数を増やすなどして事業者の持続的発展を支えていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	2	事業名	創業支援を目的とした地域の空き店舗情報データベース化	戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	1	施策名	商工会ならではの事業承継と創業推進推進

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員減少に歯止めが掛からない中で創業者を増やしていくため、創業者に対する支援策を充実させる必要があった。

2. 事業のねらい

創業支援の一環として、地域の空き店舗情報をデータベース化し、創業希望者のニーズに迅速に対応できる環境を整備する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

二ツ井町で創業を希望する者が、土地や店舗物件等が豊富な旧能代市にて創業をする場合が多々あり、必要な人にタイムリーに情報を提供できる環境を整えることはとても重要である。5年間で、商店街だけでなく二ツ井地域の空き店舗情報をある程度整備することができた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

創業相談は定期的に寄せられており、引き続き相談には丁寧に対応し、空き店舗情報も提供していく。また、創業者支援にとどまらず、業務拡大、新分野進出する事業者に対しても有効な情報を提供する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
エリアを町内全域に拡大して、空き店舗の情報収集を行う。	商店街を中心に20店舗以上の空き店舗情報を整備した。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目 商店街の空き店舗調査						項目						項目					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	13	4	3	2	2	目標						目標					
実績	13	4	3	2	2	実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	100%	100%	達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a	a	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

会員減少に歯止めが掛からない中で、事業所の持続的発展だけでなく、新規創業者に対する支援も重要である。その支援策の一つとしての空き店舗情報だが、これまでは二ツ井地域の情報がきちんと整備されておらず、創業相談があっても旧能代市に流れてしまっていた。本事業により、創業相談者にタイムリーな空き店舗情報が提供できるようになった。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

<事業の目標は達成されているかどうか>

商店街を中心に二ツ井地域の空き店舗・事務所・倉庫の調査を実施し、会員事業所が廃業した場合も聞き取りするなどしてデータを整備してきた。データが積み重なってきたことで、創業や事業拡大希望者に対して空き店舗データを紹介できるようになった。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

調査にあたっては、統一した様式の調査シートを作成。それをもとに調査・聞き取りして、エクセルで作成した空き店舗情報管理表(空き店舗マップ、一覧表)にまとめている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

会員減少という課題に対して、創業者支援の一環で町内の空き店舗情報を整備。創業相談者にタイムリーに情報提供できるような空き店舗情報が、計画に沿って着実に積み重なっている。また、創業者だけでなく事業拡大者に対しても対応できるようになった。

3. 課題

商店街を中心に町内全域まで調査範囲を拡大しているが、まだまだ足りない状況である。また、空き店舗を調査しても住居兼店舗で貸出し不可などの回答が多く、貸し出し可能な物件が中々増えていかない状況である。

4. 今後の対応方針(改善点)

創業などの相談があった場合、町内の空き店舗情報の提供を行っているが、まだまだ選択肢が少ない状況である。第2期アクションプログラムで計画したとおり、行政へ創業者支援制度の拡充を働きかけ、実際に利用可能な空き店舗が少しでも増えるよう環境を整備していく。また、創業希望者に対して商工会が身近な相談窓口である旨をPRしていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	3	事業名	チーム支援による課題解決提案の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	2	施策名	巡回の質的向上による個社支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員の経営課題が高度化しており、事業者の持続的発展にはチーム支援による質の高い課題解決提案を行うことが必要となっている。

2. 事業のねらい

攻めの巡回による事業者の経営課題の的確な把握と、相談への迅速な対応を基本に、質の高い個社支援を実施する。特に、高度かつ専門的な課題に対しては、多角的視点から課題解決につなげるため、専門家派遣制度の活用や県連北部支援センターとの連携を強化する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

金融問題を抱えている企業や新商品の販路開拓を考えている企業などに対して、チーム支援により課題解決を図ってきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

高度化、多様化する課題に対して真摯に対応し、専門家などとのチーム支援を活用し成果を出していく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
県連や専門家などと連携したチーム支援により、会員の高度な経営課題を解決していく。	金融問題を抱えている企業などに対してチーム支援を行い、課題解決を図った。また、新型コロナに係る事業再構築補助金の相談を受けた事業所に対し申請支援する際には金融機関と連携した支援を行い、採択に至った。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

チーム支援の実施						項目						項目					
項目	チーム支援の実施					項目	項目					項目	項目				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	2	2	3	1	1	目標						目標					
実績	2	2	3	1	1	実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	100%	100%	達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a	a	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
---	---

<評価の理由>

少子高齢化に伴う人口減少により、地域を取り巻く経営環境は厳しさを増している。それに伴い、事業者の経営課題も多様化・高度化しており、持続的発展にはチーム支援による質の高い課題解決が是非とも必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
--	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

経営環境の厳しさにより高度な課題を抱えている事業所は少なからずあるが、そのうち大きな金融問題を抱えている事業所に対しては専門家(弁護士)を活用したチーム支援により課題解決を図ってきた。また、事業再構築に関する支援では、金融機関との連携を行った。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
---	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

高度かつ専門的な課題を商工会や事業所のみで解決するのは困難である。チーム支援となる専門家派遣制度の活用は、無料で質の高い課題可決を図ることができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

少子高齢化に伴う人口減少により経営環境は厳しさが増し、事業者の経営課題も多様化・高度化している。持続的発展を図るには、必要性・有効性・効率化いずれの観点からも県連や専門家などと連携した質の高いチーム支援が適しており、課題を解決してきた。

3. 課題

問題が大きくなってからチーム支援を行うのではなく、問題が小さいうちからチーム支援を行い経営課題を確実に解決していく必要がある。厳しい経営環境下では専門家などとのチーム支援による課題解決が必要な事業所は潜在的に多いと思われ、その更なる発掘が課題である。

4. 今後の対応方針(改善点)

事業者の新たな取り組みを効果的なものとするため、調査情報の提供や経営状況の分析などにより事業者の経営発達を下支えする。そのため、引き続き専門家などと連携したチーム支援により課題解決を図っていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	4	事業名	販売に関する講習会開催、HP及び会報等によるタイムリーな情報提供			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	3	施策名	地域外に活路を見出す販路開拓支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

人口減少を背景に地域の市場が縮小してきており、積極的に地域外に販路を見出す必要がある。

2. 事業のねらい

新たな取引先や顧客の開拓等、地域外に活路を見出そうとする事業者に対して、商工会ホームページや会報等により、物産展、商談会等のタイムリーな情報提供を行う。また、インターネット販売等の講習会を開催し、ビジネスチャンスの拡大を支援する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

これまで、インターネット販売など販路拡大をテーマにした講習会を開催してきた。また、商工会HPをリニューアルし、積極的に支援施策の情報発信を行ってきた。商工会報については、読む人がイメージしやすいように、会員事業所に対する具体的な支援事例なども掲載してきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

販路開拓に通じる情報発信の強化。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
販路拡大に関する講習会の開催。また、商工会HPによる支援施策の情報発信。	販路拡大に関する講習会を開催してきたが、新型コロナウイルス感染拡大以降は開催できなかった。商工会HPをリニューアルし見やすくなったことで、積極的な情報発信に努めた。	c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	インターネット販売等に関する講習会の開催					項目						項目					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	1	2	1	1	1	目標						目標					
実績	1	2	1	0	0	実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	0%	0%	達成率						達成率					
達成度	a	a	a	c	c	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

少子高齢化による人口減少を背景に、地域の市場は縮小している。地元住民のみを相手に商売していれば売上減少は避けられず、平成28年度に実施した会員事業所実態調査でも「売上低下」が経営上の課題で一番であった。地域外に活路を見出すためにはインターネットの活用が適しており、講習会の開催や商工会HPの情報発信によりビジネスチャンス拡大を支援する必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) b

<事業の目標は達成されているかどうか>

当初は販路拡大に関する講習会を開催してきたが、新型コロナウイルス感染拡大で講習会を開催できなくなった。商工会ホームページはリニューアルにより見やすくなり、支援施策の積極的な情報発信を行った。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

職員が個別に指導するよりも、専門家を招いた講習会開催の方が効率的で効果も高い。また、現状の商工会報発行は年3回に限られており、商工会HP更新の方が無料でタイムリーな情報提供を行うことができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

ここ数年は毎年販路拡大をテーマとして、「魅力あるPOPの作成」、「インターネット販売」、「スマホでできる写真撮影講座」、「ドローン活用研修会」、「消費税軽減税率対セミナー(キャッシュレス決済について)」などの講習会を開催してきた。いずれも、事業所が簡単に取組み販路拡大を図ることができる内容である。また、平成29年度に商工会HPをリニューアルしたことで支援メニューが分かりやすく、支援施策をタイムリーかつ効果的に発信できるようになった。HPをきっかけに創業支援につながる実績もあった。

3. 課題

長期化する新型コロナ禍での講習会開催。また、新型コロナで変化した生活様式に対応した、新しい販路拡大の取り組み。

4. 今後の対応方針(改善点)

販路拡大に関する講習会を開催するうえで、新型コロナで変化した生活様式に対応した内容の講習会としていく。支援にあたっては、地域の経済動向・需要の調査結果に基づく情報の活用、経営状況の分析、事業計画の策定などを支援し、新たな挑戦内容を効果的なものとする。また、新型コロナによる事業再構築の面でも支援していく。商工会HPによる積極的な施策情報の発信や、商工会報での会員支援事例の掲載などは継続していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

Table with 3 rows and 7 columns: 事業コード, 事業名, 各種補助金を活用した販路開拓と新分野進出支援の実施, 戦略コード, 戦略名, 育て・挑戦を支える商工会, 商工会名, 担当事業名, 担当者名, 総轄者名, 呼子 晃大, 施策コード, 施策名, 地域外に活路を見出す販路開拓支援の実施

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

人口減少を背景に地域の市場が縮小してきており、積極的に地域外に販路を見出す必要がある。

2. 事業のねらい

新たな取引先や顧客の開拓等、地域外に活路を見出そうとする事業者に対して販路開拓を支援するにあたり、販路開拓や新分野進出への相乗効果を図るため、国・県・市などの各種補助金の活用を支援する。

3. これまでの評価結果

Table with 10 columns: 過年度, H29, B, H30, B, R1, B, R2, B

国・県・市など幅広い補助金の活用支援を行ってきた。また、補助金活用の内容も販路開拓だけでなく、新分野進出や起業支援など幅広くあった。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

昨年度と同様の方針で支援を継続。併せて、新型コロナ禍で新設された事業再構築補助金などの申請支援も行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Content: 販路拡大のため各種補助金の活用を提案し、申請書作成を支援する。実績: 持続化補助金 15件, ものづくり補助金 2件, 事業再構築補助金 2件, 県起業支援補助金 3件, 市起業等支援事業費補助金 6件 など採択。達成度: c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 3 main columns: 項目, 各種補助金申請件数, 項目, 項目. Sub-headers: 年度, H29, H30, R1, R2, R3. Data rows for 目標, 実績, 達成率, 達成度.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

Table with 2 columns: 【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

人口減少を背景に地域の市場が縮小しており外部への販路拡大が必要であるが、その際に補助金の活用は有効である。しかし、活用できる補助金を知らなかったり、補助金申請を行ったことの無い事業所は多い。商工会の補助金申請支援は是非とも必要である。

Table with 2 columns: 【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) c

<事業の目標は達成されているかどうか>

持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。実績自体は目標数に達していないものの、販路拡大、新分野進出、新商品開発、事業再構築、起業支援など幅広い内容の申請支援を行い、採択となった事業の成果は大きかった。

Table with 2 columns: 【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

補助金申請書の作成支援ではあるが、できるだけ事業者自身に書かせたうえで、そのブラッシュアップを支援している。また、商工会ならではの支援として、プレゼンテーションが必要な補助金の場合は、その練習も徹底サポートし、申請が確実に採択できるよう支援している。

Table with 2 columns: 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

地域外へ販路拡大を図るにあたって補助金の活用は有効である。しかし、補助金申請を行ったことの無い事業所は多く、商工会による補助金申請支援は是非とも必要である。補助金の採択件数自体は目標数に達していないものの、販路開拓～起業あるいは新型コロナ禍での事業再構築など幅広い分野の支援を行い、これまでに補助金採択となった事業者は成果を活かして売上を伸ばすなどしており、支援は概ね順調である。

3. 課題

国・県・市などの補助金は多種多様であり、申請支援するにあたっての幅広い知識を習得していかなければならない。そのうえで、事業所にとって最適な補助金を提案する。

4. 今後の対応方針(改善点)

各種補助金の幅広い知識習得に努めながら、引き続き販路開拓や新分野進出、あるいは起業支援など幅広い分野の補助金活用を積極的に支援していく。また、長期化する新型コロナ禍での事業再構築なども支援していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	6	事業名	職務遂行能力チェックシートの活用による能力向上			戦略コード	2	戦略名	プロ集団の商工会		
商工会名	ニッ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	4	施策名	職員の支援スキル向上推進		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

事業所の抱える課題が高度・多様化しており、支援する側の能力向上が必要である。

2. 事業のねらい

職務遂行能力チェックシートを活用しながら能力向上を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29		H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	--	-----	---	----	---	----	---

職務遂行能力に関する目標を設定しながら能力向上を図った。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

新型コロナ禍が長期化することで研修会へ参加は難しくなっており、オンラインの活用も検討する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
職務遂行能力チェックシート活用による能力向上と研修会等への参加	研修内容は税務、労務、EC化、あるいはRESASの活用など幅広く、新型コロナ禍の令和3年度は全職員がオンラインセミナーもそれぞれ受講した。また、隣の藤里町商工会との共催や、能代山本地区4商工会での共催なども行った。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

各種研修会の参加						各種研修会の参加						各種研修会の参加					
項目	各種研修会の参加					項目	各種研修会の参加					項目	各種研修会の参加				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標		8	11	10	12	目標						目標					
実績		8	11	10	12	実績						実績					
達成率		100%	100%	100%	100%	達成率						達成率					
達成度		a	a	a	a	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

事業所の抱える課題が高度・多様化しており、支援する側の能力向上が必要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

全職員が複数回研修会に参加した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

オンラインのセミナーも積極的に受講し、移動時間や経費の削減を図った。また、近隣商工会との共催による効率化も図った。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

労働保険適正加入推進員研修会、県連OJT相談員との面談、民放改正後のルール、事業承継セミナー、所得税の税制改正、財務戦略アドバイザー、中小機構セミナー、働き方改革関連法セミナー、RESASの活用、ECセミナー、インボイス制度、労務関係助成金、など幅広い分野の研修会に積極的に参加して資質向上を図った。また、新型コロナ禍が長期化しており、令和3年度からはオンラインも積極的に活用して職員の資質向上を図った。

3. 課題

当商工会は小規模な商工会であり、多様化・高度化する課題に対応し個社支援を強化していくためには、全職員が幅広い業務に精通し最大限能力を発揮していく必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

これまでも行っているが、職員研修会の定期的な開催、オンラインセミナーの積極的な受講、業務のローテーション化などによる職場内教育(OJT)の実践などを積極的に進め、職員の資質向上を図っていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	7	事業名	総代会制から総会制への移行			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	5	施策名	総代会制から総会制への移行の推進		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

急速な経済環境の変化と、歯止めが掛からない会員減少への対応。

2. 事業のねらい

事業者の多様な意見を商工会活動に反映させる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	B	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

平成29年度通常総代会で総代会制から総会制への移行について定款改正が承認され、県の認可を得る。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

総会制への移行が認可されたことで、全商工会員を対象とした総会を開催している。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
全商工会員を対象とする総会を開催する。	総会制へ移行となり参加者数を増やしていきかけたが、新型コロナ禍で令和2年度は書面決議、令和3年度も積極的な参加を促すことを抑えざるを得なかった。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

総会参加会員数						総会参加会員数						総会参加会員数					
項目	総会参加会員数					項目	総会参加会員数					項目	総会参加会員数				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	37	75	100	125	150	目標						目標					
実績	37	43	40	184	146	実績						実績					
達成率	100%	57%	40%	147%	97%	達成率						達成率					
達成度	a	c	c	a	b	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

事業者の多様な意見を商工会活動に反映させるためには、全会員を対象とした総会制が必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) b

<事業の目標は達成されているかどうか>

総会制への移行により参加者数を増やして、より多様な意見を反映させていきかけたが、新型コロナ拡大で計画よりは増やすことができなかった。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

より多くの方に総会へ参加してもらうため、全職員が手分けして総会資料を事前配付しながら積極的な参加を声掛けした。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

全商工会員を対象とした総会制に移行することで、より多様な意見を反映させることができるようになった。

3. 課題

総会制に移行することで参加者数を増やすことはできるが、全会員数と実出席者数の割合で見ると参加率はまだまだ低い。

4. 今後の対応方針(改善点)

商工会活動に多様な声を反映させるためには会員の積極的な参加が必要な旨を、総会案内時だけでなく日常の巡回でも声掛けしていく。また、ハード・ソフト両面の支援機能の強化により、常日頃の会員からの支持率の更なる向上にも務める。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	8	事業名	商工会未加入者リストを活用した会員加入促進運動の実施			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	6	施策名	商工会未加入者リストを活用した会員加入促進運動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

平成23年度の商工会員数は279名だったが平成28年度は253名に減少し、このまま推移すれば平成33年度には228名まで減少することが予想される。また、平成28年度に実施した会員事業所実態調査によれば代表者の平均年齢は64.2歳で、後継者不在の事業所は68.2%に上り、今後の商工会活動について大きな影響を及ぼすことが想定される。

2. 事業のねらい

会員減少に歯止めを掛けるため役職員が一体となって実効性の高い会員加入促進運動を実施し、商工会への加入者数を確実に増やしていく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

新規加入者数は目標を上回っている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き役職員が一体となり、未加入事業者リストなどをもとに加入促進を行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
地区毎に未加入事業者のリストアップを行い、巡回を通じた会員事業所からも未加入者情報を収集。役職員が一体となり、実効性の高い加入促進運動を実施する。さらに、事業承継や創業支援にも力を入れる。	事業承継や創業の支援にも力を入れた結果、それらを通じた加入も多かった。また、新型コロナ禍では各種給付金の申請支援を通じた会員加入も多かった。結果として、当初目標を上回る会員加入実績があった。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

新規会員加入者数						達成率					
項目	年度					項目	年度				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	3	4	5	6	7	目標					
実績	8	8	6	23	13	実績					
達成率	266%	200%	120%	383%	185%	達成率					
達成度	a	a	a	a	a	達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
---	---

<評価の理由>

会員事業所への支援を強化するには商工会自体の安定化が必要である。会員数減少に歯止めを掛けるためには積極的な加入促進運動を行っていく必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
--	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

地区毎の非会員名簿を作成し巡回するとともに、事業承継・創業・新型コロナ給付金支援などにも力を入れた結果、目標を上回る新規会員を獲得することができた。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
---	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

地区毎の非会員名簿を整理するなどして、効率的な加入促進運動を行った。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

事業承継や創業支援、さらには新型コロナ給付金の申請支援を非会員にも行った結果、目標以上の新規会員を獲得することができた。また、会員事業所からの紹介で地区外の創業希望者を支援した結果、当会に加入した事例も複数あった。

3. 課題

多くの新規会員を獲得できたが、廃業などによる脱退会員も多く、トータルの会員数では減少が続いている。

4. 今後の対応方針(改善点)

引き続き役職員が一体となって加入促進運動を続けていく。また、事業承継、創業、新型コロナ対策などの支援も強化して、新規会員を獲得していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	9	事業名	商工会ホームページの改善			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	7	施策名	ICT活用による情報発信力の向上		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

以前のホームページが古くなり、事業者への支援メニューが伝わりにくくなっていた。

2. 事業のねらい

各種経営支援情報や商工会事業情報に加え、事業者が商工会を活用して課題解決を果たした事例も掲載し、必要な情報をタイムリーに取得できるよう改善する。また、事業者への支援メニューも分かりやすく掲載し、商工会の活用事例と併せて準会相談の補完ツールとしても活用する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

平成29年度にホームページをリニューアルして支援メニューが分かりやすくなり、閲覧者にとって必要な情報を容易に取得できるよう改善された。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

商工会支援メニューなどの積極的な情報発信を行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工会支援メニューなどの積極的な情報発信を行う。	各種施策情報を積極的かつタイムリーに発信した。その結果、HPをきっかけに相談してきた方を支援し創業に至った事例もあった。また、HPリニューアルにより、「恋文すぽっと」、商店街マップ、BCPなどの情報や各種様式も取得できるようになった。	c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

ホームページでの情報発信																				
項目	年度	H29	H30	R1	R2	R3	項目	年度	H29	H30	R1	R2	R3	項目	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標			30	30	30	30	目標							目標						
実績			5	22	20	15	実績							実績						
達成率			16%	76%	66%	50%	達成率							達成率						
達成度			c	c	c	c	達成度							達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

事業所の抱える課題は多様化・高度化しており、必要な情報をタイムリーに発信し、それを閲覧者が容易に取得できるようにする必要がある。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	c
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

ホームページをリニューアルしたことで、商工会の支援メニューや各種施策・講習会情報などを分かりやすく伝えることができるようになった。以前より、HP更新回数も増えている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

効果的なホームページにすることで支援施策など必要な情報を、コストを掛けずにタイムリーに発信することができるようになった。職員それぞれが、担当部門の情報発信を行っている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

ホームページをリニューアルしたことで、施策情報などをタイムリーに伝えることができるようになった。閲覧者にとっても、支援メニューなどが分かりやすくなり、必要な情報を容易に取得できるようになった。その結果、HPをきっかけに商工会に創業相談して、支援を続けたことで創業に至った事例もあった。また、HPリニューアルにより、「恋文すぽっと」、商店街マップ、BCPなどのコーナーも設けて、各種情報や様式も取得できるようになった。

3. 課題

更新数をさらに増やすとともに、会員の相談につながるような各種施策情報や講習会の案内などの内容を充実させていく。

4. 今後の対応方針(改善点)

職員全員で役割分担して、さらに積極的な情報発信に努める。また内容をさらに充実させ、例えば、空き店舗情報(創業者向け)、道の駅ふたつから街なかへの回遊性向上による交流人口の増加事業に係る商店情報、商工会を活用して課題解決した事例紹介、なども徐々に掲載していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	10	事業名	商工会活用事例や支援メニューの巡回相談の活用				戦略コード	4	戦略名	軌道的・効率的な商工会			
商工会名	ニツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	7	施策名	商工会活用事例や支援メニューの巡回相談の活用				

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

急速な経済環境の変化などにより事業所の抱える課題が高度・多様化しており、商工会で支援できるメニューを積極的に発信していく必要がある。

2. 事業のねらい

巡回相談の際に、商工会の支援メニューや活用事例を分かりやすく紹介し、課題解決につなげていく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

商工会ホームページをリニューアルしたことで、支援メニューが分かりやすくなった。また、年3回発行の1回目の商工会報をニツ井地区全戸配布とし、会報の中で商工会の支援メニューを紹介している。商工会報の中では、会員企業への具体的な支援事例も紹介。地域で商工会活動をPRし、例えば創業相談者の掘り起こしにも繋げることができるようになった。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き、商工会の支援事例を発信・活用していく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工会ホームページや商工会報で支援メニューを紹介。商工会活用事例の実績を積み重ねて、事業者がイメージしやすいような支援事例も紹介していく。	HPリニューアルにより支援メニューが伝わりやすくなった。また、商工会報には毎回支援事例を掲載し年1回は全戸配布しているため、相談対応に活用しやすくなった。HPをきっかけに相談対応し創業に繋がった実績もある。	c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

ホームページの相談活用						項目						項目					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標		20	20	20	20	目標						目標					
実績		2	6	8	16	実績						実績					
達成率		10%	30%	40%	80%	達成率						達成率					
達成度		c	c	c	b	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

会員事業所の高度・多様化する課題に対して、商工会が支援できるメニューを積極的に分かりやすく紹介して課題解決につなげていく必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) c

<事業の目標は達成されているかどうか>

ホームページの支援メニュー紹介による相談件数自体は、まだ少ない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

ホームページによるタイムリーな情報発信や商工会報全戸配布による支援メニューの紹介は効率的である。HPには商工会加入申込書や税務関係届出書の様式を掲載しているが、令和3年度は商品券事業の取扱店申込書も掲載したことで事業者の利便性も高まった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

ホームページでの支援メニュー紹介による相談件数自体はまだ少ないが、HPをきっかけに相談対応し創業に繋がった支援実績もある。また、商工会報の全戸配布は、非会員や創業計画者に対する支援メニューの発信に繋がっている。

3. 課題

ホームページをきっかけとした相談件数自体はまだ少ない。また、商工会報では毎回、会員企業の支援事例などを記載しているが、まだまだ紹介数が少ない。

4. 今後の対応方針(改善点)

新規会員数を増加させるため、引き続き地域へ商工会活動をPRし加入促進していく。非会員だけでなく、創業希望者や農業関係者の案件発掘にも繋げていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	11	事業名	支援拠点のあり方検討			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	ニツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	8	施策名	支援拠点のあり方検討		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

現在の支援拠点(商工会館)は昭和47年建設であり、約50年が経過して老朽化が進み今後の修繕費増大が見込まれるとともに、耐震化に対応していない。

2. 事業のねらい

商工会の支援機能強化と機動的な事業実施のため、今後の具体的な支援拠点のあり方について検討する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

支援拠点のあり方を検討するにあたって、県内各商工会の会館の状況など情報収集してきた。また、移転に係る費用の見積りや財政シミュレーションも行ってきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き情報収集に努めながら、支援拠点のあり方を検討していく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
支援拠点のあり方について検討する。	令和3年度の理事会で「商工会館移転検討委員会」の設置について了承を得て、委員メンバーを確定させた。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

支援拠点のあり方について検討						項目						項目					
項目	支援拠点のあり方について検討					項目	項目					項目	項目				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標		1	1	1	1	目標						目標					
実績		1	1	1	2	実績						実績					
達成率		100%	100%	100%	200%	達成率						達成率					
達成度		a	a	a	a	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

支援拠点(商工会館)の老朽化が進んでおり、今後の会員支援や修繕費増大などを考えると、あり方の検討は是非とも必要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

近い将来の移転を視野に、県内各商工会の会館の状況や移転先となりうる町内施設について情報収集を行っている。また、商工会館移転検討委員会の設置について理事会の承認を得た。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

商工会館建設等特別会計に1,795万円積み立てているが、解体費用の見積りは687万円であり、会員減少が進む中で新商工会館建設により会員へ負担を掛ける訳にもいかない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

県内各商工会の会館の状況や移転先となりうる町内施設の情報収集を行いつつ、解体費用などのコストや支援拠点のあり方を検討して準備を進めている。移転に関する課題を整理し、議論を重ねながら具体的な移転計画をまとめるため、令和3年度には商工会館移転検討委員会の設置について理事会承認を得た。

3. 課題

ニツ井地区内に適切な空き公共施設があるかどうか、また現在の積立金で支援拠点の改修・移転が可能かどうか。なお、移転先案の一つだった能代市ニツ井地域局内については、行政から空きスペースが無く難しいとの判断がなされている。

4. 今後の対応方針(改善点)

引き続き情報収集しながら、商工会館移転検討委員会で支援拠点のあり方、財政シミュレーションなどを検討していく。商工会館移転計画を作成しそれに沿っていくことで、できるだけ早期の移転を実現。併せて職員の資質向上も図り、ハード・ソフト両面で支援機能を強化することで、会員サービスの向上にも繋げる。

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月25日

令和3年度(5年目)

事業コード	12	事業名	中長期財政計画の策定			戦略コード	5	戦略名	環境変化に強い商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	9	施策名	将来に備えた中長期財政運営計画の策定		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員数の減少に伴い年会費や各種手数料が減少しており、将来においても個社支援を迅速かつ的確に実施できるようにしなければならない。

2. 事業のねらい

将来に向けた商工会活動の健全化・安定化を図るため、中長期財政計画を策定する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

自己財源比率を増やしてきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き自己財源の確保に務めながら、今後の財政をシミュレーションしていく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
新たな会費の負担基準や適切な手数料基準の見直しについて検討し、中長期財政運営計画を策定する。	財政シミュレーションを行い、将来に備えた中長期財政運営計画を策定した。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	自己財源比率					項目						項目						
	年度	H29	H30	R1	R2		R3	年度	H29	H30	R1		R2	R3	年度	H29	H30	R1
目標	28%	31%	34%	37%	40%	目標						目標						
実績	35%	35%	38%	31%	38%	実績						実績						
達成率	125%	125%	111%	84%	95%	達成率						達成率						
達成度	a	a	a	b	b	達成度						達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
---	---

<評価の理由>

会員数の減少に伴い年会費や各種手数料が減少しており、将来においても個社支援を迅速かつ的確に実施できるようにするためには将来に備えた中長期財政運営計画を策定し、それに沿った事業運営が必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	b
--	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

会員変動の見込みを踏まえて商工会費・手数料・委託事業など各種シミュレーションを行い、将来に備えた中長期財政運営計画を策定した。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
---	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

商工会費、手数料、委託事業などの各種シミュレーションを行うことで、自己財源確保に向けて効率的に取り組むことができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

財政シミュレーションを行い、中長期財政運営計画を策定。それを踏まえながら、例えば新規創業の相談や非会員への新型コロナ給付金支援を通じて会員加入促進を行い、手数料確保(各種共済の新規獲得、ネットde記帳や労働保険事務の新規受託)に努めて自己財源比率の向上に取り組んでいる。

3. 課題

予算に沿った事業執行やシミュレーションをもとにした自己財源確保に努めているが、会員減少の影響も大きい。

4. 今後の対応方針(改善点)

会員の加入促進、ハード・ソフト両面の支援機能強化による会員サービス向上を会費・手数料の増加に繋げて、自己財源比率を向上させていく。また、中長期財政運営計画をもとに最新の状況による財政シミュレーションも継続し、今後の運営体制の安定化に繋げていく。